

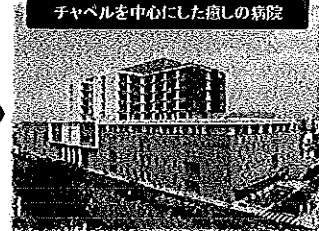
2013年3月13日
社会福祉法人三秀會



死に向かい合う人を支える —ホスピスケアの実際—

田村 恵子 RN, PhD, CNS
淀川キリスト教病院看護部

宗教法人 在日本南プレスビテリアンミッション 淀川キリスト教病院



7月16日 新病院開院
病床数: 630床
Yodogawa Christian Hospital

日本看護協会・資格認定制度

- 高度化・専門分化が進む医療現場における看護ケアの広がり看護の質向上を目的に、看護界の総意で資格認定制度が発足しました。専門看護師、認定看護師、認定看護管理者の3つの資格があります。
- 1996年に専門看護師が初めて誕生し、1997年に認定看護師が、1999年に認定看護管理者が誕生しています。

Yodogawa Christian Hospital

がん看護専門看護師の役割

- 質の高い看護の提供
- 倫理的な判断に基づく調整
- 医療政策の推進
- チーム医療の推進
- 看護師のエンパワーメント
- がん看護教育
- がん看護の技術開発、エビデンスの構築



引用: 日本看護協会 がん看護分野リーフレット一部改訂

Yodogawa Christian Hospital

講演のアウトライン

▶ がん医療における緩和ケアの役割

▶ 死に向かい合う人を支える
—ホスピスケアの実際



Yodogawa Christian Hospital

「これ以上の治療は難しい・・・」

- 余命の長さか、QOL(生活の質)か?
— どちらも改善できればそれがよい → 医療の本来の目的
- どちらかを選択しなければならない場合は?
— 苦しくても長く → 延命優先
• 「徒な延命医療への批判」
— 短くても過ごしやすく → QOL優先
• 死期が早まるような医療をどう考えるか
- 死生をめぐる価値観の違い
— 延命か、死かの問題ではない
— 延命優先からQOL優先へと変化してきている

(3) 月 清水百枝: 延命論の考え方 <http://www1.tokyo.ac.jp/~sk/rtm/25/25d1002240902.pdf> 一部改訂

Yodogawa Christian Hospital

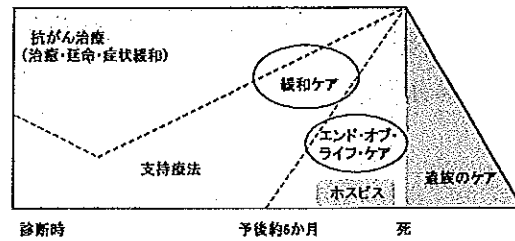
がん対策基本法における 緩和ケアの位置づけ

<基本的な考え方>

- 患者本人の意向を十分に尊重したうえで、がんの治療方法等を選択することを可能にする。
- 患者と家族にとって可能な限り質の高い療養生活を実現することを目標に、終末期だけでなく、治療の初期段階から積極的な治療と並行して、患者の全人的な苦痛を緩和していく体制を整備する。

【参照】加藤雅志:緩和ケアの施策の方向性、ホスピス緩和ケア白書2007,p1-9.
Yokogawa Chitose Hospital

包括的がん医療の概念的枠組み



【参照】Education In Palliative Care and End-of-Life Care Oncology, 2005
Yokogawa Chitose Hospital

「どのように過ごしたいですか？」



治療の選択→生き方(人生)の選択→QOL
Yokogawa Chitose Hospital

日本人にとっての望ましい死

- Miyashita M et. Ann Oncol 2007-

対象:一般市民2548人、緩和ケア病棟の遺族513人の計3061名
結果:望ましい死の概念化と共通性のまとめ

日本人の多くが共通して、大切にしていること

苦痛がない	望んだ場所で過ごす	希望や楽しみがある	医師や看護士を信頼できる
負担にならない	家族や友人とよい関係でいる	自立している	落ち着いた環境で過ごす
人として大切にされる	人生を全うしたと感じる		

人によって重要さは異なるが、大切にしていること

できるだけ治療を受ける	自然な形で過ごす	伝えたいことを伝えておける	死の準備を自分で決められる
病气や死を意識しない	他人に弱った姿を見せない	生きている価値を感じられる	信仰を支えられている

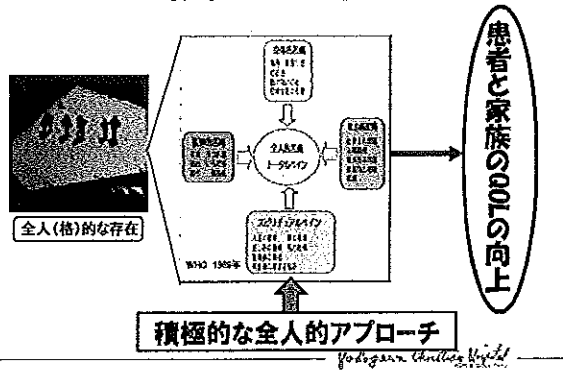
講演のアウトライン

- がん医療における緩和ケアの役割
- 死に向かい合う人を支える
-ホスピスケアの実際



Yokogawa Chitose Hospital

緩和ケアの目的



ホスピスの理念

- ホスピスとは「親切であたたかくもてなすこと」を意味する。
- 中世において、ホスピスは巡礼者の休憩の場であった。そこで、巡礼者たちは病氣や飢え、旅の疲れが癒されるようにケアを受けた。
- 近代社会において、ホスピスは、「自分の死に直面するという最も難しい旅において患者の安全を守り(shelter)、安楽を提供する」という特別なケアの理念を意味する。

Shirley Ann Smith : Hospice Concepts 2000年

Yodogawa Christ's Hospital

淀川キリスト教病院ホスピス

開設

1984年4月 本館7階

理念

全人医療

目標

患者と家族にとり最良のQOLの実現をめざす

病床数

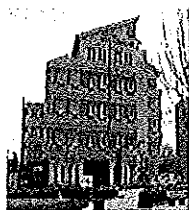
21床(個室13室、4人床室2室)



Yodogawa Christ's Hospital

淀川キリスト教病院 ホスピス・こどもホスピス病院

- 2012年11月1日開院
- 病床数: 27床
 - ホスピス(15床)
 - こどもホスピス(12床): 小児がんや神経性難病の子どもを対象



Yodogawa Christ's Hospital

がんの再発、抗がん治療の中止

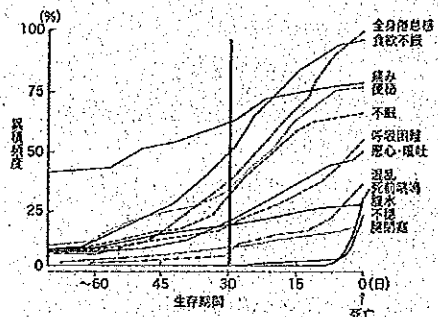
- この知らせは、'私の死'を意味する
 - 絶望
 - 恐怖
 - 喪失
 - 孤立感



症状マネジメントと共に
患者・家族の心の揺れに寄り添う
患者・家族と共に歩む

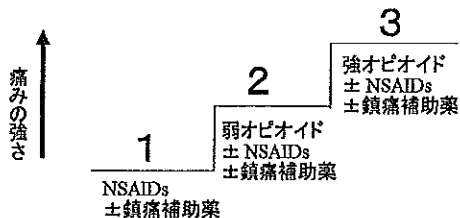
Yodogawa Christ's Hospital

主要な身体症状出現からの生存期間 (206例)



(原簿 癌: 緩和ケアと医療学, p.19, 最新医学社, 1999)

WHO 除痛ラダー



- 予後ではなく痛みの強さで薬剤を選択
- 癌性疼痛の9割以上は薬剤で解決

Yodogawa Christ's Hospital

苦痛な症状を緩和するには・・・

- 症状は、私たちの身体を脅かし、生活を脅かし、人生を脅かす。しかし、同時に、病気という事態を知らせ対処することを可能にする重要な役割を持っている。
- 症状マネジメントとは、症状を軽減するという一方の考え方ではなく、'患者にとってちょうどよい具合'にマネジメントするという意味を含んでいる。
- それぞれの症状の個人的意味に焦点をあてた詳細な検討が必要であり、'患者と医療者の協力'が不可欠である。

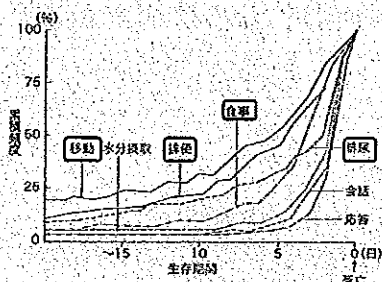
Yodagan Christy Knight

喪失の連続

- 目に見える喪失
 - 身体や機能の変化
 - 社会、地域、家庭での役割
 - 仕事や学業
- 目には見えない喪失
 - 自己のイメージ/アイデンティティの揺らぎ
 - 家族、友人、同僚などとの関係性
 - 夢や希望
 - 価値や信念
- '失う'というよりも'剥ぎ取られる'

Yodagan Christy Knight

日常生活動作の障害の出現からの生存期間 (206例)



(出典: 臨終緩和ケア学, p.20, 鎌倉学院, 1999)
Yodagan Christy Knight

'私の死'に向き合うとき 「問い」が生まれる

- 「どうしてこの私なのか・・・」
- 「何のために生きてきたのか・・・」
- 「この私が存在する意味は何か・・・」
- 「神は存在するのか・・・」

- 自己の価値観の再吟味や生の在り方を深めることを求められるなど、精神的・心理的な苦痛とは異なる次元における苦悩が生じる
- こうした苦悩を正面から受け止め、語ることを可能にしたのが、医療現場における'スピリチュアル/スピリチュアリティ'という言葉である

Yodagan Christy Knight

スピリチュアルペイン

人は、身近に死を感じるようになると、最も大切なことをはじめなくてはという思いになるし、真実なもの、価値のあるものを求めるようになる。また、不可能なこと、無価値なことを見分ける感覚が出てくる。

また、不条理な人生に深い怒りを持ち、過ぎ去った多くのことに後悔し、深刻な虚無感に捕らわれる。

ここにスピリチュアルペインの本質がある。

(Dame Cicely Saunders, 1993)

Yodagan Christy Knight

立ち竦みつつも"場の中にいる"

- ケアは、私がこの世界で"場の中にいる"ことを可能にする。
- 私たちは全面的・包括的なケアによって、私たちの生を秩序立てることを通じて、この世界で"場の中にいる"のである。
- さらにまた、私が"場の中にいる"ことができるほど十分包括的なものであるとすれば、それらのケアは互いに調和がとれており、そこに矛盾があつてはならない。

【参考】 M.メイヤロフ著: ケアの本質-生きることの意味-, p115-123, ゆみろ出版, 1993.

Yodagan Christy Knight

死の準備をしながら生を営む...

- 喪失や悲しみを嘆く一方で、今ここにあるもの、手にすることができたことに感謝する
- 奇跡を望みつつ、この先に待ち受けていることを受け入れる
- 手放す一方で、つかまろうとする
- 終わりにしたいと思いながら、急ぎたくない、ゆっくりと、と願う...

Yodagan Christian Hospital

絆のなかで、普段どおりの営みを

- 患者は、自らの命の限りと向き合って、たくましさとしなやかさを増していく
- 死と対峙しつつも、死に囚われることなく、普段どおりの生活を営み続けたい
...絆のなかで

Yodagan Christian Hospital

痛みは人を現在に閉じ込める

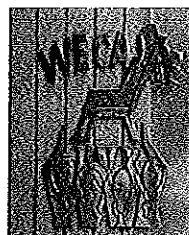
- 患者は病いにより生ずる様々な痛みで囚われて、痛み以外のことに関心を注ぐことができない状態に追い込まれる。
- 痛みは人を現在に閉じこめ、人は前にも後ろにも身動きのできず窮地に立たされる。



ケアにより痛みから解放されたとき、患者は心身の自由を取り戻し、本来のその人の在り様に立つことができる。

Yodagan Christian Hospital

全人的苦痛の緩和を目指したチームアプローチ



- それぞれの専門性と役割を尊重し、対等な立場で意見交換を行い、互いに支え合い、ホスピスの理念と目的を共有する。
- チームとしてのコンセンサスを得て、ケアを実践する。

Yodagan Christian Hospital

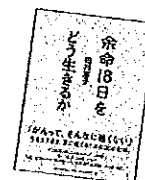
あなたは、
“あなたのまま”でたいせつです。
あなたの人生の最後の瞬間まで
たいせつな人です。

ですから、私たちは
あなたが安らかに死を迎えられるだけでなく、
最後まで生きられるように
全力を尽くします。

Saunders, D. C.

‘私’は「余命18日をどう生きるか」

誰にでも死があることを認識
すること
毎日をがんばったと思える
一日にする
明日はないと思い、
今日、心に思うことは今日、
行うこと



Yodagan Christian Hospital